

# 英語科学習指導案

指導者 丸橋 友之

1. 日時 平成 18 年 5 月 16 日 ( 火 ) 3 校時
2. 学級 2 年 4 組 男子 19 名 女子 16 名 合計 35 名 南校舎 2 階
3. 主題 New Horizon English Course Book 2 Unit 1 Baseball Friends
4. 主題について

本単元はメジャーリーグという、生徒の関心を引きやすい題材である。しかしメジャーリーグとはいえ、その球場で働く犬にスポットを当てたもので、野球のみならずアメリカのペット犬事情にも迫ることのできる題材である。そのため野球に関心のない生徒であっても、十分に題材に入り込めると考える。また本単元で扱われている言語材料は「be 動詞の過去形」を中心とし、動詞 look の「見る」という意味以外での使い方である。一般動詞の過去形は Book 1 で学習済みであり、本単元で be 動詞の過去形を学習することで、過去をあらわす SVC の文型や過去進行形を用いた表現が可能になり、また疑問文や否定文も既習事項から想起させることが容易である。そのため新出文型という感覚が薄く、また自己表現の幅を飛躍的に広げることができる言語材料である。

本校英語科では「話すこと」の目標として 1 年生は「モデル対話を元に、様々な情報交換ができる」、2 年生では「テーマに沿ってスキットを作り、対話できる」、3 年生では「テーマに沿ってアイデアを持って自己表現ができる」を掲げている。現 2 年生はテキストの音読練習を基本としながら対話活動を中心に指導してきているため、現段階ではスキットを作って対話することには不慣れである。前単元で "Show & Tell" の原稿作りをした際、具体的なことを表現したいがために現段階ではどうして英語にすることのできない表現 ( 日本語 ) ばかりを用いて英語表現しようとしたため、既習事項で表現できるものにおさええることに苦労した。よってスキットを作る場合に十分にコントロールされものでしかも自己表現欲求を満たす指導過程を工夫する必要がある。

以上のような教材と生徒の実態をふまえ、本単元では次の方法で学習を進めていく。まず文法指導である。本単元は be 動詞の過去形が初出である。そこで既習の be 動詞を含む文 ( SVC の文型と現在進行形 ) の復習から、過去のことを表現したい場合に be 動詞がどのように変化するのかを指導し、文の変形の方法はこれまでと同様であることに気づかせ、新出事項のストレスを緩和する。また p7 で動詞 look を用いた SVC の文型は文型としてではなく idiom として扱うこととする。次に「聞くこと・話すこと」の指導である。話すことでは、対話文の一部をブランクにし、対話の流れをふまえた上での自己表現文を作らせ、音読練習から対話活動へと発展させる。そして聞く側は自己表現の部分を聞き取り音声や文字で英文を再現させることで「書くこと」の活動につなげる。最後に「読むこと」の指導としては、"Reading for Communication" の内容を読み取り、True or False と Questions and Answers の活動を通して英文を英語で理解する活動を大切にしたい。

## 5. 指導と評価の計画 (別紙)

## 6. 本時の達成目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。
理解の能力	
表現の能力	「場所」と「していたこと」に関連があり、正しく話したり書いている。
言語や文化の知識・理解	過去進行形を含む文を正確に書いている。

## 7. 本時の指導の構想

### (1) 本時の構想及び留意点

現 2 年生は昨年度、音読や暗唱を中心に指導してきた。今年度はスキット作りを指導の柱の一つとしていきたい。本時はその最初の時間である。スキットは対話の流れが重要である。自作する英文の数が少ないので正確な英文を書くことにこだわるとともに、発話の関連性を大事にさせたい。そして確実に生徒全員が参加できる授業を目指したい。

### (2) かかわり合いをいかす手だてについて

本時でスキットを扱う「必然性」は、対話文中の「居場所」と「していたこと」を自由に入れ替えして、前時で学習した be 動詞の過去形と過去進行形の文を実用のレベルまであげることにあり、生徒にはそのことを理解させたい。また本時の活動のベースになるのはテキストの対話文である。テキストの最大の利点は「場面がはっきりしていて発話内容に関連性があること」であると考えられる。よってテキスト自体を活動の「よりどころ」としたい。さらに自分の発言したい内容を適切にスキットの中に表す過程で「ことば」の大切さを理解させたい。

8. 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方 学習の仕方  
D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導入	学習課題把握	5	1. Warm up として Dangan Input を行う。 2. p5 の音読による復習を行う。 3. 学習課題を確認する。 学習課題 スキットを作って対話しよう。		1. <u>Dangan Input</u> ペアで Speaking Test を行い、相互評価する。 A 2. 注意すべき語句や、内容を想起させる。 A	1. Speaking Check ... ペア Dangan Input シート 2. 教科書 3. 学習シート
展開	既習内容の想起 課題追求	40	4. 本文の復習をする。 (1) 基本文の確認を行う。 (2) 音読練習と意味の確認をする。 5. グループを組み、本文中の 2 文を書きかえる。	[表現の能力] 5. 「場所」と「していたこと」に関連があり、正しく書けている。 記述内容 A: 対話の流れに一貫性があり、例を参考に表現したい英文が正確に書けている。 C: 例の語群を用い、語順や文法を再確認しながら英文を作らせる。	4. ほぼ暗唱できるまで練習をさせる。 A 5. 対話の流れに不自然さがないようにさせる。また、過去進行形のポイントを確実に押さえた英文を確認する。 D	4. 教科書 5. 学習シート
	課題解決		6. ペアで対話練習を行う。 7. ペアで役割分担をして対話を行い他のペアに評価してもらう。 8. 発表を聞きながらメモをとり、それを英文にする。	[コミュニケーションへの関心・意欲・態度] 7. 英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。 観察 A: ジェスチャーを使いながら寸劇らしく行っている。 C: 原稿を見ながら活動させる [言語や文化の知識・理解] 8. 過去進行形を含む文を正確に書いている。 記述内容 A: 獲得した情報をすべて正確に記述している。 C: 例を参考に書かせる。	6. できるだけ英文を見ないで言えるようになるまで練習させ、ジェスチャーもできるだけつけさせる。 B・C・E 7. 寸劇であることを意識させ、演じさせる。また評価する側には観点を与えて評価させる。 D・E 8. 語順, be 動詞の使い方, 現在分詞の書き方に特に注意させる。 A	6. 学習シート ペア 7. 評価シート 8. 学習シート
終末	まとめ	5	9. 練習問題に取り組み本時のまとめをする。			学習シート

2 年 英 語		単元（題材）名 Unit 1 Baseball Friends			総時間 6 時間扱い		
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>A(聞くこと) イ 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。</p> <p>B(話すこと) イ 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。</p> <p>C(読むこと) イ 書かれた内容をもとにしながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。</p> <p>D(書くこと) イ 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること。</p>							
単元の目標		主な学習活動	評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化の知識・理解
<p>be 動詞の過去形の意味と用法を理解し、物の値段について表現できる。</p> <p>過去進行形の意味と用法を理解し、テキストを参考にしたスキットを作って対話ができる。</p> <p>本文を、黙読や音読を通じて内容を理解し、英語の質問に英語で答えることができる。</p>		<p>表を見て商品の値段を説明したり書く。過去進行形の文を使ったスキットを作り対話する。</p> <p>黙読・音読を通じて内容を理解し、内容に関する英語の質問に英語で答える。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<p>英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>まとまった英文を聞いたり読んだりして必要な内容を聞き取ったり読み取っている。</p>	<p>相手に伝わるような英文を話したり書いている。</p>	<p>be 動詞の過去形や過去進行形を含む文を正確に書いている。</p>
			<p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p>	<p>日本語を一切使わずに英語でコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>まとまった英文を聞いて細かい部分について言及する。</p>	<p>相手に正確に伝える。</p>	<p>自己表現文を正確に書いている。</p>
			<p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<p>必要な英文を必ず英文で言わせる。</p>	<p>キーワードに注目して必要な内容を聞き取らせる。</p>	<p>重要な部分をゆっくりと正確に発音させる。</p>	<p>教科書の基本文を正確に発音し、書かせる。</p>
次	時	主な達成目標	主な学習活動	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化の知識・理解
1	1	be 動詞を用いて物の値段を表現できる。	表を見て先週と現在の物の値段を表現する。				be 動詞の過去形を含む文を正確に書いている。
2	2 (本時 1/2)	過去進行形を用いて対話ができる。	簡単なスキットを作り情報交換をする。	英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。		「場所」と「していたこと」に関連があり、正しく話したり書いている。	過去進行形を含む文を正確に書いている。
3	2	本文の内容について英語で問答できる。	黙読・音読による内容理解と TF, Q&A による内容確認をする。	英文だけでなく、写真やタイトルから、予測しながら読みとろうとしている。	まとまった英文を聞いたり読んだりして必要な内容を聞き取ったり読み取っている。		
4	1	単元のまとめに取り組むことができる。	学習シートに取り組む、単元の復習を行う。				be 動詞の過去形や過去進行形を含む文を正確に書いている。